三池闘争二〇周年

◆◆◆◆◆

元　執行委員
立山　久

この欄は、三池闘争にかかわりをもつあらゆる人びとに書き続けていただいています。一号おきに紹介していきますので、よろしく。

職場闘争は抵抗の武器

戦力と行動の源泉は組織の強化

資本に勝つ日はまだ遠いが

資本主義という階級社会では、労働者を抑圧し犠牲にしなければ、それを維持することも発展もしないことを、三池闘争は立証した。

千二百名の指名解雇は、職場活動家を狙い打ちにした職場闘争の封じこめであり、マツ殺であった。このことからも、資本主義的合理化に対して最も有効な武器が職場闘争であり、組織された大衆の抵抗闘争であることは明白である。

昭和二十一年二月に、三池労組は結成を見る。その後の闘いの積み上げの上、二十八年四月の、①階級意識の普及。②職場分会・地域分会の育成と強化。③主婦会の組織化。④青年行動隊の編成――などを骨子とした組織方針が決定されたのである。その一部にある。

「組織は組合運動の始まりであって、一切の戦力と行動の源泉は組織の強化、発展にかかっている」と。すなわち、三池には先進的な学習活動家がいて、階級的な労働組合づくりを指導してきたことである。その指導者たちの先見性があって明日の闘いが予見され、準備されて、二十八年の英雄なき百十三日の闘いに突入する。備えあれば憂いなしの通り、「首切り合理化反対闘争」は、白紙撤回の勝利で終止符をうつことができた。

その結果第一に、大衆の組合に対する信頼が集中した。

第二に、職場は民主化され、職制権限は制約され、「職場の主人公は俺たちだ」の確信が生まれた。

第三に、職場で自立的な大衆行動が広がり始めた。

職場闘争と職場活動家は、日常活動の積み重ねの中で育成され、発展したものである。

三池闘争の教訓は第一に、労働組合の最大の任務は、首切りから労働者を守ること。労働力を売って生活を支える賃金労働者にとって、首切りは死活問題だ。その使命をまっとうするとき大衆は組合を信頼し、運動に参加する。

第二に、独走を許さない体制づくりが必要。三池が独走を恐れず闘ったからこそ、全国の労働者の闘いに発展した。そこにこそ初めて、統一戦線の構築も可能となってくる。

第三に、戦いは敗北したが、長期抵抗体制が確立した。そして、強大な統一戦線を構築する以外にないことを確認した。

相手の資本に勝つだけの、全労働者の組織強化は遙るかに遠く、長期間を要するだろう。でも階級社会に生きる以上、闘うほかには方法はない。

災害から十七年。三池のCO闘争もさらに長期となるだろう。だが「生命ある限り」の言葉の持つ階級的意味をかみしめ、運動の全面的な強化と発展をのぞむ。

三池闘争のとき、労仂者に襲いかかる警官隊。

短歌

根生

退職者　**木村　守**

精神力を訊して来るに忍耐と言葉を変えて答えたるわれ
無頼性もてれば生きて来られしよ信念という語源の在り処
矮軀なるわれの五体に燃え立ちて根生の炎愚直の炎
まとい来し貧乏性を支えともし堪えて来にしよ愚直の範囲
かたくなに吾を統御しゆく性の愚直のちから測り知れざり
わが裡をあばきに来しは記者故に過去よりの臓出して示しぬ
何すれば斯く貧乏のめぐり合いはかなむ言葉妻の吐きたり
こよなきはこころ健康にあることよ感じ易くしまた涙し易し
愚直なるわれに添い来て妻もまた愚直今日あるさだめに合いぬ

投稿

許されぬ〝損賠〟攻撃

202億円請求裁判の意味するもの

国鉄労組大牟田支部　**辻　俊行**

「国鉄の意思はといえば、現行法制上の行政処分だけでは争議行為の抑止効果は限界だ。国民の迷惑を最少限にし、ストライキを一回でも減らすという現実論としては、現状のままより一定の条件をつけてスト権を付与することが望ましい」

これは、一九七五年十月二十一日の衆院予算委員会での藤井国鉄総裁（当時）の答弁です。さらには、他の二公社の総裁はもちろん国民与論も、公労協の各組合へスト権を条件付きで認める方向にむいていました。

国鉄労組をはじめとする公労協の各組合は、このような情勢の中でスト権奪還に自信を持って、一九七五年十一月二十六日ストライキに突入したのでした。

中央では現場のストライキを背景に、精力的な政・労交渉が展開されました。現在でも多くの人が富塚総評事務局長と海部官房副長官との白熱したテレビ討論を思い出すのではないでしょうか。

しかしそれでも、政府や自民党、財界の壁をくずすまでには至りませんでした。

公労協は十二月三日、八日間にわたったストライキを、国民生活への影響や世論の動向を考慮し、今後もスト権奪還の闘いを強化することを確認して中止したのでした。

この闘いに対して国鉄当局は、翌一七六年（昭和五十一年）二月十四日、「スト権ストで二百二億四千八百二十七万八千円の損害をこうむった」として国鉄労組、動力車労組を相手どり、損害賠償請求の裁判を起こしました。この訴訟を私たちは、「二百二億損賠攻撃」と呼んでいます。

私たち国鉄労働者は、この訴訟が起こされた当初は法外な請求であり、とれるはずがない、さらには、当時の保革伯仲の政治情勢から、次に保革逆転の政治情勢を創り出すことによって、スト権立法闘争が現実のものとなり、損賠訴訟は自然消滅か、あるいは取り下げになると楽観視し、職場でも問題になりませんでした。このため、大衆運動を背景にした、原則的な闘いを一切展開してこなかったのです。

しかし、一九八〇年（昨年）の衆・参議院ダブル選挙での自民党の圧勝によって、議員提案による「スト権立法」構想は座折したのでした。

今政府・自民党に国鉄当局は、ローカル線の切り捨て、職場の統廃合、業務の外注化、などによって国鉄労働者七万四千人を減員する〝三十五万人体制〟という、大合理化を強行してきています。この合理化を遂行するためには、闘う労働組合がじゃまなのです。ですから、この損賠攻撃の本質は「カネ」を取ることではなく、反合理化闘争や賃上げ闘争をストライキで闘う国鉄労組の組織の弱体化、ストライキ封じが最大の目的とみなければなりません。さらには今、総評の中核である国鉄労組をつぶすことによって、日本の労働運動全体を闘わない組織に変えること、日本からストライキを追い出してしまおうと考えているのです。

これは、許されることではありません。この攻撃をはね返すには、労働者が連帯して闘う以外にはありません。もちろん、私たち国鉄労働者が、まず職場から断固闘いぬくことが出発点です。同時に一人でも多くの労働者・勤労国民が、「二百二億」損賠攻撃と闘うことの重要な意義を理解し、闘いの輪を拡げることもまた必要なのではないでしょうか。

三池労組の皆さんの連帯と共闘を、心からお願いします。

ストを覚悟して要求を獲得

民間グループ決起

「春闘勝利へ向けて春闘相場を民間第一グループが作りあげていこう」――IC・私鉄回答に先行する春闘共闘翼下の民間労組第一グループは三月五日、東京・水道橋の全逓会館で春闘史上初の総決起集会を開いた。

集会には全国金属や全港湾、マスコミ共闘など三十一単産の代表百五十一人が参加。ストを覚悟で闘う決意を固めた。（連合から）

3月10日大牟田市役所前で、81国民春闘勝利、国鉄202億円損賠攻撃粉砕、諸要求貫徹大牟田地区決起集会、（写真参照）が開かれ、終了後参加者は小雨のなかアピールのためのキャラバン行進へ。決意を示した。

なかま

職場二十分会（港務）

市成　義弘さん

▼…三池闘争の三年前――昭和三十二年に入社の市成さん。旧港務指導部では若い人のなかでも十指にはいっていたが、既に年齢四十五歳。勤続二十三年間の大部分を、三池労組の旗のもと差別に反対して闘ってきた。

職場では人望を集め、代議員をつとめる。その誠実な人柄は絵画やクラシックの音楽の鑑賞が好きなところにもあらわれている。

▼…スポーツ好き。高校時代には軟式テニスをやったが、最近は硬式テニスへ。始めて六カ月になる。

若い頃は山登りが趣味で、阿蘇の根子岳をはじめあちこちの山の空気を吸ってきた。

▼…三池闘争のときは、支部詰の行動隊員。港務支部のピケの持ち場は四山鉱正門前で、久保清さんが暴力団に刺し殺された場所。ただそのときは、方番が違っていて参加していなかった。

「千二百名の労働者の首を守るために闘った三池労組は、正しかった。そして三池闘争は、私の人生の方向をきめた。自分たちの時代を建設するには、この道しかない。目先だけでものを見ることはやめよう」――話をこう結んだ市成さん。

家族は妻の妙子さんに、子どもが二人。長女が9歳で、長男が1歳。荒尾市緑ケ丘社宅弥生町60棟に住む。